

犬塚ため池 (小高区大富)



江戸時代後期に築造された ため池。報徳仕法に関するた め池の一つです。 現在の貯水量は12,800㎡

●仕法に関するため池(小高区・鹿島区)						
名まえ	場所	新築·改修	された年	Ξ		大きさ
犬塚	小高区	江戸後	期新築			56.0ha
唐神	鹿島区横手	安政	3年	(1856)	~4年改修	200.0ha
横峰新	鹿島区寺内	安政	4年	(1857)	新築	50.0ha
藤金沢新堤	鹿島区北海老	慶応	3年	(1867)	新築	50.0ha

※犬塚ため池については、梅田敏雄氏調査による

室原川分水路 (小高疎水)



請戸川 (室原川) の水を引いた室原 (浪江町) から飯崎 (小高区) までの用 水路です。文久元年(1861)着工、文 久3年完成。延長14.5km。荒至重が中心 となり測量調査を行い、流路を決め工事 を行いました。

(平成20年撮影)

鹿島区地図(報徳仕法史跡案内)

栃窪

七千石堰

橲原

●仕法に関する用水路(小高区・鹿島区)

名まえ	取水する川	場所	新築・改修された年	全 長
小高疎水	請戸川	浪江町室原~小高区飯崎	文久3年(1863)	約 14.5km
大谷用水	真野川	鹿島区上栃窪	慶応元年(1865)	約 3.4km
南右田堀	真野川	鹿島区鹿島~南右田	慶応3年 (1867)	約 4.0km
七千石用水	真野川	鹿島区栃窪~北海老	慶応3年 (1867)	約 10.0km

佐藤信重の碑



南相馬市 市民生活部 生涯学習課 〒975-8686 福島県南相馬市原町区本町2丁目27 TEL.0244-24-5249 FAX.0244-23-3013

南柚木

鹿島中鹿島

鹿島区役所O

さくらホール

江垂

塩崎

七千石用水

石宮ため池

横手

岡和田

牛河内

報徳二宮神社 #

○のある大字名は、

北屋形

藤金沢ため池

南屋形

八沢小

鹿島小南右田用水

北右田

南右田神社

小島田

(旧真野小学校)

報徳仕法を実施した地区

北海老

玉貫ため池

南海老

七千石用水路





全長約9.5km。真野川から唐神ため池、南屋形石宮ため池・藤金沢ため 池へと入る用水路で、仕法事業により改修され、さらに海老の藤金沢・玉 貫ため池までの約2km延長されました。途中土手を築き、土手の上に用水 路を通した土樋といわれるところがあります。

唐神ため池(鹿島区横手)



相馬地方最大のため池で江戸 時代のはじめ寛文の年(1661~ 73) につくられました。200年後 の安政3年(1856)、古くなりこ われそうな状態を荒至重たちは改 修しました。

南相馬の報徳仕法に関わる人物

◆富田高慶(とみた こうけい)

二宮尊徳の一番弟子となり、尊徳の代理として中村藩の報徳仕法の実施を 指導し、さらには尊徳の娘・文(ふみ)と結婚するなど、尊徳から絶大な信 頼を得ていました。

尊徳の教えを広めるため『報徳記』や『報徳論』を残し、後に尊徳の妻子 が行方郡石神村(現 南相馬市原町区石神)に移り住むと、二宮家の世話を するため自分も近くに移り住み、亡くなるまで二宮家と報徳仕法に対し力を 尽くしました。

◆斎藤高行(さいとう たかゆき)

高慶と同じく二宮尊徳の弟子となり、高慶とともに藩の報徳仕法の指導に あたりました。

また、報徳仕法の理論・方法と指導者の心得を記した『報徳外記』、尊徳 の言った言葉を書きつづり、報徳の教えをあらわした『二宮先生語録』を残

◆荒至重(あら むねしげ)

幼いときから頭が良く努力家だった荒至重は、藩の算術を1年足らずで修 得し、江戸で算術・測量術を学び、その後二宮尊徳の弟子となりました。

高慶らとともに藩に戻ると、修得した算術や測量術を用いて多くの用水路 やため池をつくり、仕法の成功に導きました。また、学んだ知識や技術を伝 え、人材を育成するために『量地三略』、『算法町見術』を著しています。





高慶



斎藤 高行



至重

大谷堰

大谷用水

▲ 堂六神山

真野ダム

上栃窪

荒至重の碑

植原一ノ堰

山神社

池田源左衛門の碑

佐藤信重の碑 (鹿島区上栃窪)

佐藤信重は上栃窪の地元の役人と して難工事であった大谷用水を築 きました。水路計画の場所は石が 堅かったため半田銀山(伊達郡桑 折町) から専門の職人を雇い、元 治元年(1864)に開始し慶応元年 (1865) にようやく完成しました。 この2つの顕彰碑は左から明治24 年(1891)・同34年に村の人々に よって建てられました。



荒至重の碑 (鹿島区上栃窪)

唐神ため池

角川原

山下

セデッテかしま

小山田 大日川

小池

浮田

上栃窪の大谷用 水をつくることに 尽力した代官荒至 重を顕彰し、明治 23年 (1890) 村の 人々によって建て られた碑です。



池田源左衛門の碑 (鹿島区橲原)

山神社の境内にある この碑は、元治元年 (1864) 、池田源左 衛門嘉重を顕彰したも

のです。 嘉重は橲原村一ノ堰 を築いた人物です。





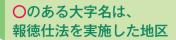
報徳二宮神社 (鹿島区寺内)

昭和26年(1951)につくられた神社です。 二宮尊徳を祭神としてまつっています。

南右田神社(鹿島区南右田)

北郷でも、とくに水の便が悪かった南右田村に、当時代官 であった荒至重は真野川から水を引く用水路をつくりまし た。これにより収穫が増えた村の人々はこのことを感謝し ました。約60年後の大正10年(1921) 荒至重の功績をたた え、村人たちは神社をつくり、祭神としてまつりました。 平成23年3月の地震による津波で社殿は流失しましたが、 4年後の27年に再建されました。

原町区地図(報徳仕法史跡案内)



※地名の「迫」と「廹」は同じ意味です。

●仕法に関するため池

名まえ	場所	新築·改修る	された年				大きさ
内城(大堤)	原町区信田沢	万延	元年	(1860)	~文久元年	(1861) 新築	10.0ha
中山	原町区石神	安政	2年	(1855)	新築		35.0ha
大迫	原町区矢川原	安政	5年	(1858)	~6年新築		41.7ha

相馬充胤公の碑 (原町区萱浜赤沼)

旧藩主相馬充胤が明治20年 (1887) に亡くなると、これ までの功績に対し感謝の意を込 めて、北萱浜 (原町区萱浜内) の村民が建てた碑。

(平成20年撮影) ※震災により損壊

金沢

北泉



北泉海浜総合公園

下渋佐

小浜

小沢



中山ため池の碑 (原町区石神杉内)

明治12年 (1879) 建立。中山ため池の築 造を記念して建てられ



大迫ため池 (原町区矢川原)

太田川の片倉堰から水 路 (約3.0km) を引い て水を入れています。



南相馬IC

Ħ 信田沢 長野 内城ため池

押釜



大木戸

馬場

馬事公苑

小高区

新田川

深野 34

二宮報徳殿跡

北長野

北新田

西殿堰 かばっと) 南相馬市立 中央図書館 和農商 卍 新祥寺 开

南相馬市博物館

牛来

鶴谷

下太田

上北高平

上高平 下高平 萱浜用水路トンネル入口

鹿島区

上江用水路

萱浜用水路

下北高平

上渋佐 相馬充胤公の碑

●仕法に関する用水路

名まえ	取水する川	場所	新築・改修された年	全 長
萱浜用水	新田川	原町区桜井~萱浜	慶応 4 年(1868)	約 4.0km
上江	新田川	原町区北新田~泉	年不明改修のみか?	約 7.0km

※上江については相良征一氏調査による

中太田『 自 上太田元 太田川 大迫ため洲

矢川原

大甕 益田 米々沢

小木廹

江井 Lt 元和 下江井 堤谷



萱浜用水路は新田川の水を萱浜に運ぶ用水路と して作られました。この用水路は現在でもつかわ れています。

用水路がつくられる前の萱浜見谷地地区(北萱 浜)近辺は、海辺に近いこともあって、塩分を含 んだ水がたまりやすかったそうです。江戸時代に は排水路をつくり、水はけを良くしましたが、田 畑に使える水は北原堀(北原川)の余った水や少 しのわき水しかなく、いつも水不足で悩んでいま した。そこで、あらたに用水路がつくられること となりました。

相馬充胤公の碑



奥州中村藩の報徳仕法について

◆天明の飢饉と奥州中村藩

奥州中村藩では天明3~4年(1783~84年)に発生した天明の 飢饉以降、冷害や洪水によってたびたび凶作となり、田畑は荒れ、 餓死者や領内から逃げ出す者が続出し、人口が3分の1までに減少 してしまいました。

厳しい倹約を行うなどして耐えましたが、その後も冷害が起こ り、藩の財政はさらに悪化し、領内は荒れていきました。

◆富田高慶と二宮尊徳

藩士の富田高慶は、荒れ果てた領内を立て直すため、二宮尊徳の もとに入門し、報徳仕法を学び、それを手伝ううちに一番弟子とな

中村藩で報徳仕法が始まると、高慶は尊徳の代理として中村藩の 報徳仕法を指導し、藩主をはじめ斎藤高行や荒至重、さらに領民た ちを含む多くの人々と協力しながら、荒廃した村々の救済について 尽力し、その結果領内の多数の村々を立て直すことができました。

◆報徳仕法の取り組み

荒れた農村を立て直すため、倹約や貯蓄だけでなく、農民の働く意 欲を高めるしくみを作るなど、様々な取り組みが行われました。

- ・長雨や冷害に強いヒエを作るなどして食べ物を確保し、災害や凶作
- ・村人の投票によってもっともよく働いた者を選び、表彰して農具な どの褒美を与え、働き者が評価されるしくみを作りました。
- ・他の村から移り住んで来た人に新しい家や生活用品を与え、小さな 子供のいる家にはお金や米を与えるなどして生活を助けました。
- ・田畑への水を確保するために用水路やため池などをつくったり、直 したりしました。
- ・農作業の合間や夜に縄ない、縄を売ったお金の一部を報徳金として 積み立てました。この報徳金は村人への褒美や家の修理などに使わ れました。

二宮尊徳の教え-

報徳仕法は尊徳の教えを行うことを目的と します。

尊徳の一番弟子富田高慶は、その教えを次 のように理解し、『報徳論』にまとめました。 まず、その根本を「至誠」とし、実践する上で 「勤労」「分度」「推譲」を行うこととしました。「積 小為大」「一円融合」といった教えがあります。

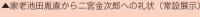
相 馬 物 館 市



南相馬市博物館は県営東ヶ丘公園内にあり、豊かな自然に 囲まれています。

南相馬市の歴史・自然・民俗に関する展示や国指定重要無 形民俗文化財「相馬野馬追」について紹介し解説しています。 「報徳仕法」のコーナーでは、尊徳の坐像と高慶の坐像(複 製)、120年間の藩の人口と年貢の量が書かれた邦本篇、家 老池田胤直からの金次郎(尊徳)へのお礼状、そして褒美と して農民に与えられた鍬と褒美の内容を書いた褒美状、仕法 建ての家模型(写真パネル)を展示しています。





▼南相馬市博物館



木造富田高慶座像 佐藤朝山(玄々)作 南相馬市博物館蔵 ※常設展示室ではレプリカを展示

南相馬市博物館

〒975-0051 福島県南相馬市原町区牛来字出口194 TEL0244 (23) 6421 FAX0244 (24) 6933

開館時間:午前9時から午後4時45分まで(最終入館、午後4時まで) 休館 日:毎週月曜日及び12月29日~1月3日

二宮尊徳と富田高慶の墓

旧住宅跡(石神生涯学習センター)の東となりに尊徳と 高慶の墓があります。尊徳の墓は昭和30年(1955)、百年 忌を記念して栃木県日光市の報徳二宮神社にある墓をかた どって建てられたもので、尊徳ゆかりの品物が埋葬されて いるそうです。同じ墓地内には尊徳の妻歌子、尊徳の子尊行、 尊行の妻鉸子、孫尊親の妻モト子の墓もあります。

高慶の墓は、明治 23 年(1890)に亡くなったときに建 てられたものです。



高慶の墓